

2019年4月号へのご意見

評価観の変容を感じた

4月号の特集の座談会で、大分県立杵築高校の芦刈信司先生が言われていた「思考力などは(中略)他者との比較ではなく、過去の自分との比較で力が高まったと実感させることが最も大切」という言葉に、評価観の変容を感じた。私も、生徒がそうした実感を持てる指導を目指していきたい。また、定期考査は、指導と評価の一体化を考える上でも重要な学校文化の1つだが、今回の特集では、改革事例が部分的に紹介されたに過ぎない。思考力・判断力・表現力を評価する定期考査について、より分析を加えた記事を期待したい。

愛知県立日進西高校 野々山新

定期考査の作問で育成を目指す資質・能力を体感

4月号の特集のテーマ「高校1年生の指導」の重要性は従来と変わらないが、次期学習指導要領や大学入学共通テストを前に、より重要になるのは授業だろう。その意味で、兵庫県立相生高校の配点10%程度の記述式問題や、大分県立杵築高校の社会とのつながりを意識する出題など、定期考査の実践が参考になった。育成を目指す資質・能力を、教師自身が作問を通して体感することは、とても大切だ。岩手県立大船渡東高校 川村俊彦

「〇〇力」の定義の統一が重要

連載『学校教育デザイン』を描く道標しるべで取り上げられた新潟県立巻高校の記事を読んで感じたのは、各校

で使う「〇〇力」の意味は統一されているのかという点だ。教科が増えれば増えるほど、教師が考える「〇〇力」の定義は拡大するだろう。それをどのように教師間で共有化を図るかが、学校全体のカリキュラム・マネジメントにおいて重要だと思う。私も他教科の先生方と話し合い、「〇〇力」を正確に捉えるようにしたいと感じた。

静岡県立御殿場高校 松山 陸

ルーブリックを使った生徒による評価の重要性を再認識

4月号「改良! 指導ツール ビフォーアフター」のルーブリックを用いた評価の方法を読み、教師による評価に加え、生徒の自己評価や他者評価が重要だと再認識した。生徒による能力開発のためには自己評価が不可欠であり、他者評価は自己評価を客観的に見るための大切な視点であると感じた。評価のあり方を考えるにあたって、記事が大変参考になった。

静岡県・私立沼津中央高校 後藤松太郎

小・中学校の指導も、高校の指導の参考になる

以前、教育委員会で指導主事をしていた時に感じていたことだが、小学校や中学校の指導は、高校の指導においてもとても参考になる。新連載の「高校教師 study-tour」は、高校教師という第三者の目を通した記事だが、個人的な感想も、識見に裏打ちされたものならば、より普遍性を持たせられると思った。

群馬県立伊勢崎興陽高校 川島一秀

OFF SHOT

今号の「実践 アクティブ・ラーニング」は、5人の先生方が「コンビニを科学する」を共通のテーマに、各教科の視点で行われた授業を取材したスペシャルバージョンでした。教室には、他校の先生方や新聞記者が大勢いらっしゃいましたが、中でも目を引いたのが、石川県立金沢泉丘高校の新聞部の生徒でした。第42回全国総合文化祭で最優秀賞を受賞するなど、実力のある部活動で、今回の授業の取材では、企画した先生や、実際に授業を受けた生徒にインタビューをし、その記事を「速報版」として自校に配布したとのこと。発刊は2か月に1回と、『VIEW21』高校版と同じ頻度ですが、速報版は何と年に20回前後発行しているそうです。「これは負けれない!」と思いながら、取材と編集を行いました。ぜひご覧ください。(荻原)

『VIEW21』高校版 公式アカウント

LINE@

友だち募集中!

『VIEW21』高校版や教育に関連する最新情報をタイムリーにお届けします。*お友だちの登録方法は、右の2次元バーコードを読み取っていただくか、LINEアプリの「友だち追加」>「ID検索」で「@view21」とご入力いただき、追加をお願いいたします。



VIEW21 高校版 2019 8 月号

次号は 8月20日発行 (予定)

『VIEW21』高校版は年6回の発行です